

## 編集後記

宗片会長より新作能『大あらし』の詞章をいただき冒頭に掲載した。シェイクスピア晩年の悲喜劇 *The Tempest* の翻案である。孤島で暮らす主人公父娘の下に、かつて主人公を離島に追いやった大公とその息子の一行が大あらしで流れつく。原作では、その息子が主人公の娘と愛に落ちる。傍らで、主人公は大公らに怒りの魔術を浴びせるが、やがて復讐の念を捨てて赦し、和解がなって大団円。新しい世界と未来への希望が満ちる。宗片会長の能翻案では、主人公は初めから復讐を超えた赦しの境地にあり、施す魔術は、復讐ではなく大自然の理法に適った秩序の回復のために為される。宗片翻案ならではの高潔な主人公による『大あらし』。編集子も論文を書いたことのある大好きな作品で、是非いつか舞台上で上演をと願っている。

本号では、郡山直氏と松井貴子氏から新春の詩と俳句をいただき掲載した。日本人の平和を願う想いが、四季があり季節を愛でる日本人の感性が、英詩、英語俳句に溢れている。原稿は旬な時季にいただいていたが掲載が遅くなったことをお詫び申し上げる。以前の号に続けての連載にもなっており、今後ともご投稿をお願いしたい。

また、木下恵美子氏と田中英史氏にご投稿いただいたエッセイと論文は、「事務局より」に書いたように、本年 4 月 22 日の学会春季大会でのご発表とテーマが重なるもので、編集子も大会に参加したことで理解が深まった。田中氏のリチャード・フラナガンは最近話題のオーストラリアの作家で、つい先ごろ日本語の翻訳が出た。先の大戦における日本兵の、オーストラリア兵捕虜の残酷な扱いが問題になっている。日本では余り知られていない事実か。

それから、前号第 25 号で詞章を掲載した新作能『貫一・お宮』（宗片会長作）の謡い公演が、本年 1 月 27 日に熱海・起雲閣で催された。宗片会長によるご講演内容と視聴者からの感想を本誌に掲載した。

今号は他に、これまでのバックナンバーの目次一覧を掲載した。学会ホームページの電子学会誌に、全号全論文の PDF ファイルを載せている。ぜひご活用いただきたい。

それと、「事務局より」案内のように、平成 31（2019）年 3 月 24 日（日）に、東京・銀座シックスの観世能楽堂で、宗片会長作の新作能『たたかわざる者—ヘンリー・ソーと R.H. ブライズ—』が初演される。ブライズ氏は現陛下の皇太子時代の 20 年に及ぶ家庭教師で、宗片会長の恩師。そのシテを観世流能楽師の津村禮次郎氏が舞われる。詳細、まもなく学会ホームページでご案内します。皆さん是非観に来てください。（編集子）

---

### 『融合文化研究』第 26 号

<https://ishcc.stars.ne.jp/>

発行所 〒192-0906 東京都八王子市北野町 560-11-302 国際融合文化学会（ISHCC）事務局

発行人 宗片 邦義

発行日 2018（平成 30）年 10 月 22 日 ホームページ公開

Published by: International Society for Harmonization of Cultures & Civilizations (ISHCC)

Office: Room 302, 560-11, Kitano-machi, Hachioji-shi, Tokyo 192-0906, JAPAN

E-mail: kuniyoshi@munagumi.com (MUNAKATA Kuniyoshi)

---